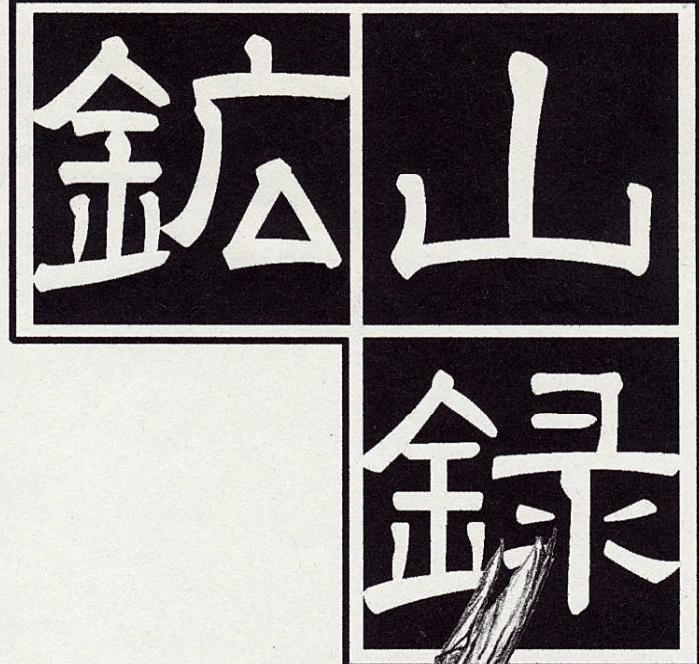


The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



あおじ（死体）
Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 4
Apr. 2003

ふおれすと鉱山のもとめるもの④	
ふおれすと鉱山の過去と未来.....	2
オープンから 11 ヶ月の活動報告.....	4
鉱山町の自然.....	6
リトル・ヴォイス～リレーエッセイ～	7
ふおれすと鉱山からのお知らせ.....	8

ふあれすと鉱山の過去と未来

おかげさまで
オープンしてもうすぐ1年がたちます。

今年は、まだまだ雪が多いなあ・・・。

といえば、去年の今ごろは、何やってたかなあ・・・。

窓の景色を眺めながらそんな物思いにふけってしまうのが年度がわりの頃です。

そう、去年の今ごろは、ふあれすと鉱山オープンの準備に追われてんやわんやしていました。そして、なだれ込むように、オープニングセレモニー、学校キャンプ、夏のシーズン・・・。

どの活動もドラマチックで濃密だったため、

一気に3年ぐらいの時間を過ごしたような気がしています。

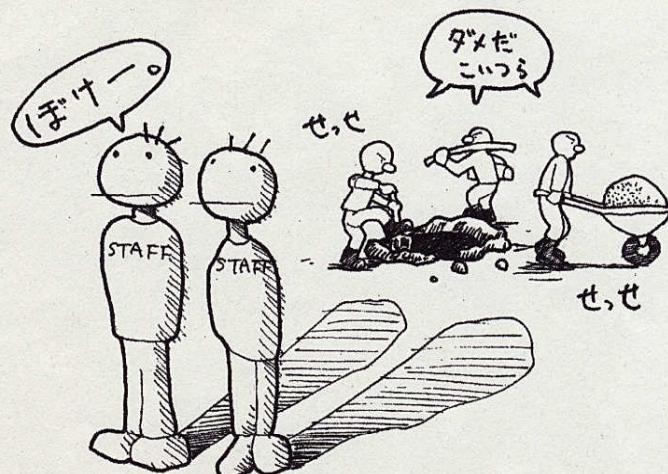
そのドラマのいくつかを、今、冷静にふりかえってみることにしました。

どんな成果と、どんな課題が見えてくるのでしょうか。

協働、というよりむしろ「救いの手」。例えば、クライミングボード。

「こういうところにはヨオ、ああいうモンがあったほうがいいべ」、確かにそんなんだよなあ、でも時間も金もないんだよな・・・と決断できずモタモタしているうちに、いつの間にか巨大な壁が建立されました（登別山岳会の皆様、ありがとうございました）。

ほんとに、もうホントにいろんな人に助けていただいた一年でした。慣れない仕事にぼくらが青息吐息になっているところを、見るに見かねて「しようがねえなあ、手伝ってやるよ」と手を貸してくださいの方の、なんと多かったことか。コラボレーションだと協働だと、カッコいいことを掲げている割には何だか助けていただくばかりで、こちらから何かを提供することがほとんどなかったのでは、そんな気がしてなりません。



ダメなスタッフを見ていられない多くの利用者のおかげで、ふあれすと鉱山にも様々な要素が取り込まれていきました。

しかし、われわれから何か提供するというよりも、むしろ利用者のみなさんが積極的に「ふあれすと鉱山」に関わりやすい場や機会を設定すること、つまり楽しみながら救いの手を差し伸べることができるような雰囲気を持つことこそ「ふあれすと鉱山」の理想的な協働スタイルなのではないか、そう思うようになりました。

今後は、より多くの「利用者懇談会」を設け、ふあれすと鉱山の意思決定そのものになるべく多くの皆さんに関わることでできるようなくみを作っていくたいと考えています。

学校の可能性

例えば、ある若い先生との会話。

「この前、叱られちゃいました」なんで？「他の学年とのバランスを考えてもらわないと困るって言われました」それって、つまり？「ふおれすとに行き過ぎってことです」予算とかで、問題があつたの？「いや、別にそんなことないんですけどお」・・・まあ、学校にもいろいろと事情はあるのでしょうかし、詳しいことはよく分かりませんが、その話を聞いて、ぼくらは逆に少し嬉しくなりました。ふおれすと鉱山を学校の授業活動に取り入れようと真剣に考えてくれる先生方が、少ないながらも少しづつ増えてきたんだなあ・・・。

今年は、実に多くの学校にご利用いただきました。その都度先生方と打合せをして、プログラム提供をさせていただいたのですが、まさに暗中模索、必ずしも上手なプログラム提供ができたとは言えない状況が何度かありました。やはり、利用される先生方と、ぼくたちスタッフとのさらに深い信頼関係を築いたうえでのプログラム提供が必要なのです。

そこで来年度は、先述のような、ふおれすと鉱山を有効だと認識してくれる先生方をさらに増やすべく、先生方と行うワークショップなどを充実させ、ぼくら自身も、より学校や先生方の思いや考え方を汲み取ることのできるよう研鑽を積んでいきたいと考えています。

学校ではできないような学習を、学校の先生と考えるだなんて、何だか素敵なことです。

居心地のよいふおれすと鉱山とは？

例えば、子どもを連れて遊びにきたあるお父さんの言葉。

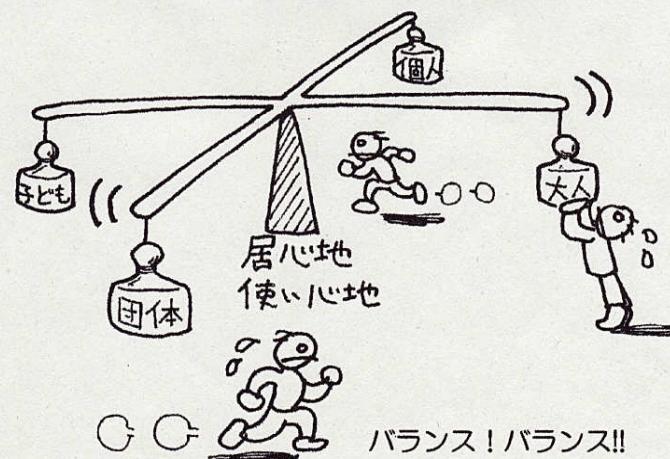
「子どもたちは何だか楽しそうなんだけど、ぼくらのゆっくりするところがないんだよな…。」言い返す言葉がありませんでした。それは単に、タバコを吸う場所がないとかソファがないとか、そういうことを言っているではありません。子どもの視線にこだわるあまり、大人、あるいは「ふらっ」と来館される方への学びや遊びを発信する施設になりきっていない、ということなのです。

今年はどうちらかというと、予約を頂いた一定の利用団体に対して、どれだけ居心地のよいサービスができるか、といったことに焦点を

当てて施設作りを進めてきました。

それはとても大切なことではあります、今後はより「ふらっ」と来る人たちにとっでも楽しめる、そして、子どもも大人もそれぞれの視線で夢中になってしまふようなしきけが必要だ、と考えています。

もちろん、それはぼくらだけで必死に作るという訳ではなくて、モモンガくらぶの方や利用者の方など、いろんな人とアダコウダといながらやりたいものです。



2年目のふおれすと鉱山へ…

こうやって振り返ってみると、うん、いろいろと頭の中によみがえってきました。

上に書いた以外にも、まだまだたくさんのドラマが思い出されます…。

楽しかった思い出ももちろんあります。

なぜかヤケドのようにヒリヒリする思い出が多いような気がするのはどういうことなのかしら…？しかししながら、そのヤケドをあえて受け止め、じっくり観察し、理解することから、よりよいふおれすと鉱山づくりのヒント、そしてシナリオが生まれると信じています。

さあ、来年のふおれすと鉱山には、どんなシナリオが似合うのでしょうか。

そして、どんな「シナリオなきドラマ」が生まれるのでしょうか。

半分は不安、そして半分以上のドキドキを胸に抱きながら、ふおれすと鉱山は2年目の春を迎えます。

(上田 Program Director)

オープンから11ヶ月の活動報告

ふあれすと鉱山300日

オープンしてから早くも1年が経とうとしています。
色々あったこの1年の締めくくりの時期の活動報告です。

12月

もう今年も終わりだねー。そんな話が出る中、
ふあれすと鉱山は鉱山町の森づくりの気運が
高まったひと月。主催事業は三木さんと山本
さんによる2回の森林講座だけでした。この
報告は前号をご覧ください。



1月

いよいよ雪遊びの季節到来!! 歩くスキーやそり遊びで、冬にも関わらず多くの方々が遊びに来てくれました。

13日…冬の鉱山（主催）歩くスキーをはいて、冬の森へと出かけました。
歩くスキーはじめてさんもベテランさんも心地よい汗ににっこり。

10~12日…ネイチャークラフト講習会（主催）ドリームキャッチャー、ドールチェア
など、ちょっとおしゃれなクラフト作りに挑戦しました。うわさがうわさ
を呼び（？）連日の大盛況となりました。

18~19日…子どものインターフリテーション講座（主催）

俳優の金田一仁志さんをお招きし、体全体を使って表現する楽しさ・
大きさを学びました。人に伝えることを通して、それぞれの個性が
花開いた講習会となりました。

23日…アニマルウォッキング（主催）子どもたちと巣箱を作って、鉱山の
森にたくさんの鳥や小動物が住んでくれることを願いました。

26日…歩くスキー（モモンガくらぶ主催①）

のんびりと歩くスキーを楽しみました。途中、動物の足跡も見つけたり。

2月

今年は2月も後半からたくさんの雪が降って、春を遠ざけているよう
でした。でも、冬遊びにはもってこいの年だな。

1~2日…手作り展示講習会（主催）利用者まで巻き込んだ展示って、どんなの？

デジタリウムの松原さん、イリュージョンミルの金田さんを講師に、
楽しい展示をみんなで考えました。

8~9日…ジュニアチャレンジ耐寒キャンプ（主催）

「外で寝るとどれだけ寒いかな？」厳冬期に雪のなかでお泊まり。

9日…冬まつり（教育委員会主催）

色々な冬遊びを用意しておきました。冬だからこそ、外で遊べるんだぞ！

23日…歩くスキー（モモンガくらぶ主催②）歩くスキーはじめての子

どたちも参加しての歩くスキー。今回は、川又温泉方面に出かけま
した。雪のテーブルを囲んでのお茶タイムは最高！その後の海の幸
を楽しんだバーベキューも最高！

12月		
6	幌別小3年生 総合的な学習	自分たちの住んでいる登別の自然について学びました。
10	青葉小3年生 総合的な学習	ササを刈ったり、ツルをとったり、森林整備をみんなで行ないました。
21	北海道コミュニティネットワーク	手作りのクリスマスキャンドルに挑戦しました。
26~28	社会福祉協議会	大きな夢を！ということでドリームキャッチャーづくりに挑戦しました。

3月		
4	ねおすツアー	冬の森でアニマルトラッキングを楽しみ、鉱山町の自然と親しみました。
11	幌別小4年生 総合的な学習	夏に遊んだ川が冬にはどうなっているのか見に行きました。
19	社会教育主事研修	ワークボックスを使って、クラフトや雪遊びを楽しみました。
20	苫小牧東小3年生 総合的な学習	ウトナイ湖周辺の自然と登別の自然の違いについて学びました。

1月		
26	モモンガくらぶ 主催歩くスキー①	歩くスキーでモモンガの巣を見に行きました。

2月		
9	冬祭り	ソリすべりや雪つみレス、雪中ホッケーなどで雪の上の遊びを満喫しました。
14	登別小5年生 総合的な学習	身近にあった公害のお話や再生している森について学びました。
16	ねおす エクスカーション	永遠の未完成、ふれすと鉱山を見学に来ました。
19	幌別小5年生 総合的な学習	思いっきり雪遊びをした後に、雪というものについて考えました。
23	モモンガくらぶ 主催歩くスキー②	歩くスキーを楽しんだ後には森の中でのんびりとお茶を楽しみました。

12月
1月
2月
3月の
すべての
活動状況

モモンガくらぶとふれすと鉱山 いい関係をめざして

2003年お正月明けの週末に「おしゃれなネイチャークラフト教室」がふれすと鉱山で開催されました。それは、11月に行なわれた指導者ステップアップ講習「ネイチャークラフト講習」で、長野修平氏より学んだ手技を市民の皆さんに伝えようと企画した冬休みイベント。雪のある時期、しかもお正月明け、どのくらいの人が集まってくれるのだろうとスタッフも読みが利かず、定員20名で広報開始。そして、ふたを開けてみれば、予約の時点で市内の親子のみなさんで連日満員御礼の大盛況！これは、スタッフだけでは、手が足りないということで、急きょネイチャークラフト講習に参加したモモンガくらぶのみなさんに一声。「手伝ってください！」そんな一声に、集まってくれたモモくら会員は、延べ14名。夜勤明けで「仕事さっさと終わったところ。」なんて、眠い目をこすりながら、お手伝いに来てくれる会長がいたり、「なに？手が足りないって？そんなの知らね。」なんて、憎まれ口をたたきながらも、毎日きちんと顔を出してお手伝いしてくれる近所のおじさんがいたり、「お手伝いじゃないけど、作りたい！」とドリームキャッチャー作りに挑戦する小学3年生のモモンガくらぶ会員がいたり。

「雪が降ったら、歩くスキーだべや。俺たちにまかしとけ。」この一言からはじまった、モモンガくらぶの主催事業、歩くスキーもこの冬2回開催されました。以前よりここ鉱山町をフィールドに歩くスキーを楽しんでいた会員4名が名乗りを挙げ、この冬は案内人として鉱山の森に入りました。「今日は旭鉱林道でも下見してくっかな。」「あのカラマツ林の前で、お茶タイムもいいべさ。」なんだか、案内人たちが一番楽しそうにしています。

ふれすと鉱山のコンセプトのひとつ、コラボレーション。まさに、ふれすと鉱山は、モモンガくらぶとも協働して、様々なことを進めています。このコラボレーションによる来年度の事業の展開は…どうぞお楽しみに！

(遠藤)

今、鉱山町に姿を現すクマはほとんどいません。安心して森で遊べる反面、少し寂しいとも思うのです。

鉱山の森には現在120種を超える動物や鳥がいます。これは、ほかの地域に比べるとそれほど多い数ではないのかもしれません。しかし、



鉱山町を歩く

再生する自然④

そこには鉱山がまだ栄えていた頃に多くの動植物がこの地を見放した悲しい歴史があるのです。

動物たちがこの鉱山町に再分布するにあたり、50年近い歳月がかかりました。その最初は小さな、でもたくましく生きていくノネズミだったでしょう。ノネズミが増えれば、それを食べるキツネやテンなどの多くの動物たちがやってきます。樹木が生えて森ができると、大きな動物たちがやってきます。シカがこのあたりまで足を伸ばしてきたのは、ここ数年のこと。そして一昨年前の秋、鉱山町の環境調査でたった一頭のクマが生息している証拠を見つけたとき、僕はこの森のそんな長い道筋を見たようで嬉しかったのです。鉱山の森が毎年のようにクマが立ち寄るくらい健全でありますように。そんなことを願わざにはいられませんでしたが、去年の秋には彼が立ち寄った跡はなかったのです。

檜山 (art director)

潤りますか？ 芽吹きへの準備

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ④

春間近のこの時期、カエデなどの落葉樹に出液（しゅつえき）とよばれる現象がみられます。みなさんも、樹液がてりてりと樹皮を滴り落ちて輝いている木を見かけたことはありませんか。この出液（しゅつえき）は、「季節」と「木の中を通る水の動き」にとても関係しておこる現象です。

植物にとって、水は葉っぱで光合成を行なう上でかかせないもの。植物は、葉っぱから水を外に出すこと、導管の水を引っ張り、根っこから水を吸い上げ、水の通り道をつくっています。つまり、光・温度条件ともに好ましい夏、落葉樹たちは、水道の蛇口（葉っぱの気孔）を開けることで、根っこから水をじょんじょん吸い上げ、じょんじょん光合成を行なっています。



樹液
つつき
跡
が
も
れ
か
だ
し
ます。

秋が近づき土壤の気温が下がってくると、根っこのまわりにある水の量が減ってきます。そこで落葉樹は、水分が奪われることを防ぐため、水分の出口である葉っぱを切り離すことにします。元栓をしめて、水の通り道を遮断するのです。こうして、落葉樹は乾燥から身を守り、寒い冬を過ごすことができます。

冬も終わりに近づき、根っこのまわりの水の量が増えてくると、水を根から枝先に向かって押し上げる根圧という力が起ります。この力により、水道の元栓がじわりじわりと緩んできます。そして、木の中に水が満たされていき、芽吹きの準備が整っていくというわけです。そんな時期に、例えばキツツキが樹液を飲むために樹皮をつついりすると、樹液はその傷から外に流れ出し、樹皮をてりと輝かせることになるのです。

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

ふあれすと鉱山に思うこと

松原 條一

開設当初は「ふおれすと鉱山」？なんか変なネーミングと思っていたが、ここで色々と関わっているうちに、今ではすっかり馴染んでしまって「これでなきゃダメ！」っていう感じだ。

かつて、ここは学び舎であった。秋のよく晴れた日にグランド跡にたたずみ、目をつぶると子どもたちの楽しげな声が聞こえてきそうな気がする。大人たちは膨大な鉱石を熔かし、飯の種を作り出している。ここで育ったわけではないので、その様子は想像でしかないが、とても賑やかな頃があったらしい。そんな喧騒の時代もとうに過ぎ去り、今は昔「ふおれすと鉱山」が再生を見守る番である。銀座通りも、馬車鉄道も、精錬所もすでに立ち木と草の中。わずかに「銀座通り」に数軒が残るのみ。裸地も見事に森林再生の道を歩んでいる。川はきっとその頃と変わらない音色を奏でているのだろう。あの山もこの山もそのままの姿で見下ろしているのだろう。しかし、確実に緑濃くなり、あの頃小さかった木々たちも大木と化し、私たちにおいしい空気を供給している。

ネイチャーセンター「ふれと鉱山」は昨年春にオープンし、たくさんの市民をはじめ、各地からの来客、老若男女が集っている。春は春、夏は夏、秋は秋、冬は冬の味を出して、来る人々を楽しませている。たとえば知床のような原生の中でもなければ、然別湖のように神秘的な湖があるわけではなく、黒松内のような木肌の美しいぶなが生えているわけでもない。それらに比べればここには何もないかもしれない。それでも何かを求めて訪れる。物珍しさがあつてくる人もいるかもしれない。それでもいいのだ。自らが創りたここでは簡単に手に入る。街からわずか10キロ足らずのところに、日常を忘れることがあるということは、とても幸せなことだと思う。山菜採りもいい、魚釣りもと思う。

山と花をこよなく愛す山登りの達人。飾らない話ぶりとほどよいいい加減さを兼ね備えた人柄は、すでにふおれすと鉱山に欠かせない存在である。こう見えて、列車を走らしたら日本一。登別山岳会理事長も務める。モモンガくらぶ会長。因みに手前の女の子もモモくら会員。小学3年生。

「ふれすと鉱山」の
食堂から右手にみえる
鷲別岳（室蘭岳）は来
館者からよく「あの山
なに？」と名前を聞く
れます。街から見る鷲
別岳と鉱山町から見る
鷲別岳では形が大きくな
違うので同じ山と思わな
い人が多いようなのです。
この山を見ていくと、山は見
る方向で姿がずいぶん変わるもの
だと妙に感心してしまいます。
(山に限らず、視点が変わると、
見え方は違うものだけ)

鷲別岳と室蘭岳

と親しむ会」をつくり、ホームページページを開き、涙ぐましいPR活動を行っています。私も会員ですが、私は室蘭から見たときは室蘭岳、登別から見たときは鷲別岳と呼ばないと勝手にきめています。

でも、山の名前（正式名称）って誰が決めたの？

鉱山案内 小川邦夫的

ところで、名前を聞かれたとき、「ムロラン岳ですよ。」と言つてしまふのですが、この山國土地理院の地図には鶴別岳となっています

EVENT INFORMATION

ふれすと鉱山の主催事業

イベントチェック

(予定です。詳しくは別途広報します)

ふれすと鉱山スペシャルウイーク

GW:4/29~5/5 お盆:8/12~8/17

冬休み:1/1~1/12

指導者ステップアップ講座

①教員向け指導者養成講座 (5/21, 22)

②ボランティア養成講座 (5/31, 6/1)

③川の遊びと安全 (6/7, 8)

ジュニアチャレンジキャンプ

夏休み全開キャンプ (8/1~3)

冬休み耐寒キャンプ

(高学年:2/14, 15 低学年:2/28, 3/1)

親子プログラム

にちようびはふれすとたいむ

①かわらであそぼう (9/14)

②おちばであそぼう (10/26)

③ゆきであそぼう (2/1)

大人の遊びシリーズ

鉱山流自然体験のすすめ

①鉱山流秋の楽しみ方 (10/19)

②冬の動物たち (11/29)

③ネイチャースキー入門 (1/25)

ゴールデンウイーク

ふれすと鉱山のスペシャルウイーク

4月29日(火)~5月5日(月)

春らしいイベントを
たくさん用意して待っています。

クラフト教室や
山菜採り教室、ベコもちづくりなど、
色々な遊びを取りそろえて
春の鉱山をたのしみましょう。

予約不要。参加費無料。
好きなときに好きな遊びができます。

指導者ステップアップ講習

ふれすと鉱山指導者養成講習会

5月21日(月)~22日(火)

主に学校の先生方を対象として行う、
指導者のための講習会です。

ふれすと鉱山でどんな遊びができるのか、
ふれすと鉱山のスタッフを使って
どんな授業ができるのかを考えましょう。

イベントのお問い合わせ・お申込みは
「ふれすと鉱山」
TEL:0143-85-2569
FAX:0143-81-5808 まで
お気軽にどうぞ。

カット「シマエナガ」:佐藤 南津子(モモくら)

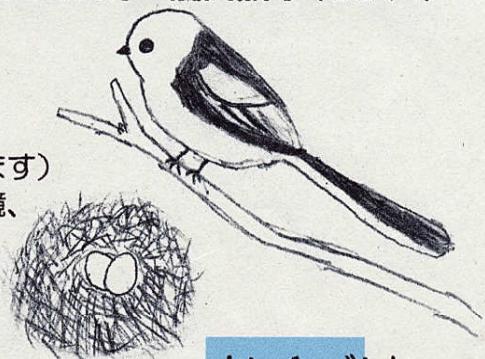
ふれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00~17:30

入館料・無料

休館日・毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)

・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、
マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。



EDITOR'S LOUNGE

今日もボヤーっとパソコンのディスプレイばかり見ている。心の中を焦燥ばかりが駆け抜けていく。もう外には福寿草のひとつも咲いているというのに。こんなではきっとパソコンの電磁波にやられて電波人間になってしまいうちがいない。春になるとそんなことばかりを考えて憂鬱になる。春よ来い。などと歌っている場合ではないのである。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.4

発行:2003年4月

発行所:〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号:0143-85-2569 FAX:0143-81-5808

E-Mail:kouzan@pluto.plala.or.jp

URL:www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm